

平成 27 年度加盟団体代表者会議

1月21日（土）県立スポーツ会館において、本会加盟団体の代表者60名の参加により、平成27年度加盟団体代表者会議を開催しました。

今年度は代表者会議開会前に、「国民体育大会天皇杯10年連続入賞感謝状贈呈式」を執り行いました。これは、平成18年度の第61回国民体育大会から10回連続入賞という本県のスポーツ振興並びに本県スポーツ界にとっても大変名誉なことであるので、感謝の意を込めて鴻会長から本日まで出席の代表者の方々へ感謝状を贈呈させていただきました。

そして、今年度の代表者会議は次のテーマにより行われました。

まず、「休止中の神奈川県総合体育大会について」高橋専務理事を進行役として協議されました。

昭和25年から始まった大会ですが、平成22年に休止し、その後は各競技団体が自主開催する大会や「かながわ駅伝」「オールかながわスポーツゲームズ」として実施されています。現在継続して開催している競技や、中止した競技の経緯などを紹介していただきましたが、選手を派遣する側の市町村体協からの意見も出され、復活を望まれる声がある反面、復活するにもハードルが多いとの声など様々な意見が出されました。

続いて、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会と日本体育協会との関わり等について」のテーマで公益財団法人日本体育協会事務局長河内由博様に講演をしていただきました。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会2020（略称「東京2020大会」）組織委員会は、平成26年10月に公表した大会ビジョン骨子の中で、「東京2020大会は、日本や世界全体に対し、スポーツ以外にも含めた様々な分野で、ポジティブなレガシーを残す大会として成功させなければならない。」と発表し、日本体育協会名誉会長でもある東京2020大会組織委員会森会長は「オリンピックによって生まれた変革と進歩を遺産として、次の世代に受け継ぎたい」とコメントしています。

また、日本体育協会では事務局内に「東京オリンピック・パラリンピック支援室」を設置し、組織委員会と連携を図りつつ、次の4つの項目に関わりをもって取り組んでいます。

①国体での取り組みとして、現在、正式競技37、公開競技2、デモンストレーション競技19を実施していますが、2020年に向けてこれまで実施してこなかった9競技10種目（特に女子競技）を順次導入していくこと。

②スポーツ指導者の育成として、今2015年にスポーツ指導者制度50周年を迎えたのを契機に、新時代にふさわしい指導者制度の充実・実現を目指していくこと。

③前回の東京オリンピックのレガシーでありますスポーツ少年団を、少子化社会の中でどのように発展させていくか、今後大きな骨格をつくっていくこと。

④国際交流として、「みんなでスポーツを」を提唱している「国際スポーツ・フォー・オール協議会」に加盟していますが、2019年に東京で開催される国際会議に協力していくこと。

最後に、我が国におけるスポーツ団体が担っている社会的責任の大きさを認識し、よりよいスポーツの推進に皆様と共に取り組んでいきたいと力強く語って、当日の講演を終了しました。

本会の取り組みでもあります「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」を盛り上げていくという中での大変参考となる講演でした。

